



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年8月2日

上場取引所 東

上場会社名 東邦化学工業株式会社

コード番号 4409 URL <https://toho-chem.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中崎 龍雄

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理本部長 (氏名) 井上 豊 TEL 03-5550-3735

四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	10,194	△7.5	382	△17.5	315	△17.5	232	3.2
2019年3月期第1四半期	11,016	4.6	463	3.1	382	7.1	225	22.8

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 211百万円 (△19.7%) 2019年3月期第1四半期 264百万円 (21.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	10.89	—
2019年3月期第1四半期	10.56	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	53,302	13,043	24.3
2019年3月期	52,407	13,089	24.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 12,970百万円 2019年3月期 13,014百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	0.00	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	21,500	△3.3	1,000	2.8	900	14.2	650	30.8	30.48
通期	46,000	1.6	2,500	13.6	2,300	21.4	1,700	△10.9	79.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期1Q	21,350,000株	2019年3月期	21,350,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	21,945株	2019年3月期	21,945株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期1Q	21,328,055株	2019年3月期1Q	21,328,055株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、個人消費の持ち直しや企業の底堅い設備投資は続いているものの、中国景気の減速などを背景に輸出や生産面において一部に弱めの動きがみられ、停滞感が出始めています。今後も、米中通商問題の影響や、英国のEU離脱問題、更には地政学リスクの高まり等、引き続き不透明な環境が続くことが予想されます。

化学業界においても、比較的堅調に推移していた製品需要について、中国の景気減速の影響などから、全般的に需要の鈍化がみられました。また、米国で新增設されたプラントからのシェールガス由来の化学製品の生産が本格化していることから、世界的な需給の緩和と競争の激化が懸念されます。

このような経営環境下、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、製品需要が総じて弱含みで推移したことや、原材料価格の低下に伴う売価の低下、中国の景気減速の影響が重なり前年同期比822百万円、7.5%減収の10,194百万円となりました。

利益面は、減収の影響を原材料価格の低下でカバーしたものの、減価償却費や人件費等の固定費負担の増加を補うには至らず、営業利益は、前年同期比81百万円減益の382百万円、経常利益は、前年同期比67百万円減益の315百万円となりましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産廃棄損の減少と法人税等の減少により、前年同期比7百万円増益の232百万円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

(界面活性剤)

香粧原料は、洗剤向けの一般洗浄剤が低調で減収となりました。プラスチック用添加剤は、主力の帯電防止剤等が振るわず減収となりました。土木建築用薬剤は、コンクリート関連、建材関連共に需要が弱含みで減収となりました。農薬助剤は、海外向け販売が低調で減収となりました。一方、紙パルプ用薬剤と繊維助剤は、若干ながら増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比386百万円、6.4%減収の5,677百万円となり、セグメント利益は、減収の影響を原材料価格の低下による利益率の改善でカバーした形で、前年同期比8百万円増益の282百万円となりました。

(樹脂)

石油樹脂は、大口ユーザー向けの販売増を主因に増収となりました。合成樹脂は、冷蔵機器用の断熱フォーム用ウレタン原液等が振るわず減収となりました。樹脂エマルションは、トナー用添加剤等が伸長し増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比1百万円、0.2%増収の793百万円となり、セグメント利益は、前年同期比11百万円増益の13百万円となりました。

(化成品)

合成ゴム・ABS樹脂用ロジン系乳化重合剤は、数量は前年並みだったものの原料価格低下等に伴う売価下落の影響により減収となりました。金属加工油剤は、大口ユーザー向け販売が落ち込み大幅な減収となりました。石油添加剤は、海外向け販売が伸び悩み若干の減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比170百万円、11.6%減収の1,302百万円となり、セグメント利益は、前年同期比4百万円減益の24百万円となりました。

(スペシャリティケミカル)

溶剤は、各用途とも総じて低調で減収となりました。電子情報産業用の微細加工用樹脂は、半導体関連向け需要は底堅いものの、当社工場の定期修理の影響による出荷の遅れ等により減収となりました。アクリレートは、昨年後半から中国市場での需要が落ち込み大幅な減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比255百万円、9.6%減収の2,400百万円となり、セグメント利益は、前年同期比25百万円減益の30百万円となりました。

なお、上記の各セグメント利益の前年同期比の数値は、後記P.8(セグメント情報)「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」の表における「報告セグメント」の比較情報です。

その他に、各セグメントに帰属しない調整額(棚卸資産の調整額等)が37百万円(前年同期は102百万円)あります。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、53,302百万円と前期末比895百万円の増加となりました。その内訳は、流動資産が732百万円増加の31,339百万円、固定資産が162百万円増加の21,962百万円です。

流動資産の主な増減要因は、現金及び預金が914百万円の増加、受取手形及び売掛金が708百万円の減少、たな卸資産が325百万円の増加です。

固定資産の主な増減要因は、有形固定資産が308百万円の増加、投資その他の資産が148百万円の減少です。

一方、負債合計は40,258百万円と前期末比941百万円の増加となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金が694百万円の減少、短期借入金が120百万円の増加、賞与引当金が294百万円の減少、長期借入金が1,479百万円の増加、リース債務の増加を主因とするその他（固定負債）が281百万円の増加です。

純資産は、13,043百万円と前期末比45百万円の減少となりました。主な増減要因は、利益剰余金が、配当金の支払いと親会社株主に帰属する四半期純利益との差額の23百万円の減少、その他の包括利益累計額が21百万円の減少です。

その結果、自己資本比率は24.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高は、第1四半期は一過性の要因もあり全般的に低調に推移しましたが、第2四半期以降は、電子材料分野を中心に香料原料、土木建築用薬剤、溶剤等の各分野が回復してくると予想しております。しかし、期初の出遅れ分の挽回は難しいことから前回予想を下回る見通しです。

一方、利益面は、売上高の下振れの影響はあるものの、原材料価格が当初予想より下回る見通しで、利益率の改善効果により、前回予想の達成は可能と見込んでおります。

その結果、2019年5月14日の「2019年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」において公表いたしました2020年3月期の第2四半期（累計）及び通期の業績予想の売上高を変更しております。なお、利益予想の数値については変更していません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,264	9,179
受取手形及び売掛金	11,373	10,664
たな卸資産	9,965	10,291
その他	1,003	1,204
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	30,607	31,339
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,036	7,990
機械装置及び運搬具(純額)	2,170	2,117
土地	3,145	3,145
建設仮勘定	1,405	1,535
その他(純額)	1,453	1,731
有形固定資産合計	16,211	16,520
無形固定資産	843	845
投資その他の資産	4,744	4,596
固定資産合計	21,799	21,962
資産合計	52,407	53,302

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,985	8,291
短期借入金	6,573	6,693
1年内償還予定の社債	300	300
未払法人税等	25	18
賞与引当金	494	199
その他	3,881	3,863
流動負債合計	20,260	19,366
固定負債		
社債	4,320	4,320
長期借入金	8,555	10,035
退職給付に係る負債	5,087	5,160
資産除去債務	62	63
その他	1,031	1,312
固定負債合計	19,057	20,892
負債合計	39,317	40,258
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,755	1,755
資本剰余金	896	896
利益剰余金	8,432	8,409
自己株式	△6	△6
株主資本合計	11,078	11,054
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,307	1,235
為替換算調整勘定	894	939
退職給付に係る調整累計額	△264	△259
その他の包括利益累計額合計	1,936	1,915
非支配株主持分	74	73
純資産合計	13,089	13,043
負債純資産合計	52,407	53,302

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	11,016	10,194
売上原価	9,253	8,496
売上総利益	1,763	1,698
販売費及び一般管理費	1,299	1,315
営業利益	463	382
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	33	36
物品売却益	11	10
その他	9	9
営業外収益合計	55	57
営業外費用		
支払利息	57	48
為替差損	53	17
損害賠償金	—	33
その他	25	25
営業外費用合計	137	124
経常利益	382	315
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
固定資産廃棄損	16	2
特別損失合計	16	2
税金等調整前四半期純利益	365	314
法人税等	139	82
四半期純利益	225	232
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	225	232

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	225	232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	99	△71
為替換算調整勘定	△65	46
退職給付に係る調整額	4	5
その他の包括利益合計	38	△20
四半期包括利益	264	211
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	265	211
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	6,064	792	1,472	2,656	10,985	31	11,016	—	11,016
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	51	51	△51	—
計	6,064	792	1,472	2,656	10,985	82	11,067	△51	11,016
セグメント利益 又は損失(△)	274	2	28	55	361	△0	360	102	463

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額102百万円には、棚卸資産の調整額99百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	5,677	793	1,302	2,400	10,174	20	10,194	—	10,194
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	49	49	△49	—
計	5,677	793	1,302	2,400	10,174	69	10,243	△49	10,194
セグメント利益 又は損失(△)	282	13	24	30	350	△5	344	37	382

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額37百万円には、棚卸資産の調整額30百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。